


マネジメント情報

事業活動との関わり

近年、地球温暖化などの気候変動に伴う地球規模での問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与えています。食品素材メーカーである不二製油グループは、工場の操業に加え、原料の調達や輸送などバリューチェーンの各工程においてもエネルギーを使用し、CO₂を排出しています。

考え方

不二製油グループは社会の一員として、経済的価値を創出するだけでなく、バリューチェーン全体で地球環境に配慮した事業活動を展開しています。「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べ2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑えるよう努力を続けること」を目的とした国際的枠組みであるパリ協定では、各国は温室効果ガス削減に向けた目標を定め、今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出と吸収源による除去量を均衡させるよう取り組むことを求められています。このような状況を認識し、当社グループは「環境基本方針」に基づいてCO₂の排出削減に取り組んでおり、2030年に達成を目指す「環境ビジョン2030」^{※1}において、グループ全体でのCO₂排出量の削減についてコミットメントを表明しています。目標は、Science Based Targets（以下、SBT^{※2}）に基づき、2016年比でスコープ1+2の総量を2030年までに40%削減、スコープ3（カテゴリ1）の総量を18%削減と設定し、2020年5月にSBT認定を受けました。生産現場での省エネ活動を引き続き行うことはもとより、エネルギー使用量の少ない新設備の導入や再生可能エネルギーの使用によりCO₂排出量の削減を推進し、目標達成を目指します。

▶ 不二製油グループ 安全品質環境 基本方針（PDF形式、306KB）

※1 環境ビジョン2030の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/environmental_management/

※2 SBT：パリ協定が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと。

推進体制

CO₂の排出量削減については、2021年度は最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進していましたが、2022年度からESG担当役員のもとで推進する体制としています。また、ESGマテリアリティ^{※1}の一つとして、取締役会の諮問機関であるサステナビリティ委員会^{※2}において進捗や成果を確認しています。

※1 ESGマテリアリティの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/sustainability/materiality/>

※2 サステナビリティ委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/sustainability_management/

目標・実績

2030年目標 ^{※1}	2021年度実績 ^{※1}	達成率
スコープ1 ^{※2} +2 ^{※3} 総量40%削減（グループ全体）	21%削減	52%
スコープ3 ^{※4} （カテゴリ1 ^{※5} ）総量18%削減（グループ全体 ^{※6} ）	0.1%増加	0%

※1 基準年：2016年。

※2 スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出。

※3 スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出。

※4 スコープ3：事業者の活動に関する他社の排出（カテゴリ1～15）。

※5 カテゴリ1：原材料。

※6 インダストリアル フード サービス（オーストラリア）は除く。

○：目標に対して90%以上達成、△：目標に対して60%以上達成、×：60%未満

2021年度目標	2021年度実績	自己評価
環境ビジョン2030の社内浸透	<ul style="list-style-type: none">グループ会社に対する環境ビジョン2030の説明を通じ、理解の深化を促進（オンラインで実施）グループ会社に対する環境データ集計と分析のフィードバック、および好事例の横展開を実施	○
環境監査を通じたCO ₂ 排出量の削減活動のレベルアップ	環境監査を4社に実施。検証、評価して改善を促すことで意識向上とグループ全体のレベルアップを促進	○
CO ₂ 排出量の削減戦略を立てやすい環境の整備（担当者がタイムリーかつ容易にCO ₂ 関連データを確認できるデータ収集のシステム導入、太陽光パネルの導入などの好事例の横展開）	環境データ収集システムの導入によりタイムリーなデータ取得環境を整備	○
スコープ3（カテゴリ1）削減活動として、サプライヤーに対するアンケート調査（エンゲージメント活動）の開始	サプライヤーのCO ₂ 削減活動への取り組み状況に関するアンケート調査票を作成。ヨーロッパの生産拠点のサプライヤー数社に対してエンゲージメント活動の手続きを開始	○

考察

2030年目標に対する取り組み

スコープ1+2のCO₂排出量は、前年の19%削減に対し、2021年度は21%削減となり、2ポイント好転しました。目標の40%削減に対しては、達成率52%となりました。新型コロナウイルス（COVID-19）の影響に改善の兆しが見えてきたことに伴い生産量が増加しましたが、CO₂排出量は減少しました。国内では、2020年度に設置したコージェネレーションシステムおよび太陽光発電や、生産プロセスの変更の効果が1年間を通じてあったことが寄与しました。海外では各社の節電や設備保全などによる省エネ活動および、2020年度に導入したウッドランド サニーフーズ（シンガポール）の太陽光発電の効果が1年間を通じて出たことが寄与しました。

スコープ3のCO₂排出量は、前年の6%増加に対して、2021年度は0.1%増加となり、5.9ポイント好転しました。目標の18%削減に対しては、達成率0%となりました。

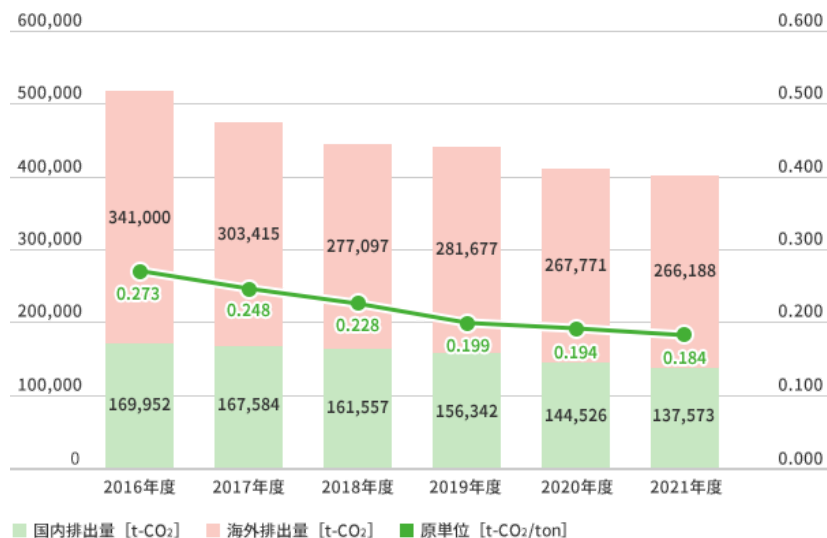
2021年度目標に対する取り組み

「環境ビジョン2030」の達成に向け、オンライン環境監査を通じて環境ビジョン2030の説明や、省エネの考え方などを共有しました。さらなる削減活動の推進のために、インターナルカーボンプライシング制度を活用すべく、世界の炭素税価格や炭素取引価格（ETS）を参考に検討を行い、2022年度から不二製油（株）で、価格をCO₂1トン当たり1万円に設定しトライアル導入しました（まずは投資判断において参考値として計算）。今後、価格の最適化や本格的な導入に向けて検討を行っていきます。

2021年度から環境データ収集システムを導入しました。システムを活用したタイムリーな情報収集やその分析を行い、削減活動に活かしていきます。

スコープ3（カテゴリ1）の削減に向けて、サプライヤー数社に対してエンゲージメント活動の手続きを開始しました。

年間CO₂総排出量（スコープ1+2）と原単位推移



Next Step

- ・ 環境データ収集システムによるタイムリーな環境データ収集の開始
- ・ 環境ビジョン2030の社内浸透（ER）
- ・ 削減活動の推進およびレベル向上
- ・ スコープ3（カテゴリ1）の削減に向けたエンゲージメント方法の検討および一部サプライヤーに対するエンゲージメントの開始

具体的な取り組み

日本国内のエネルギー管理活動

日本国内では、エネルギー消費原単位の対前年1%低減（省エネ法^{※1}遵守）および環境ビジョン2030におけるCO₂排出量削減を目標に掲げており、目標に沿ったさまざまな取り組みを行いました。

具体的には、環境に関する情報共有のため、不二製油（株）と国内グループ会社の推進責任者が参加する「エネルギー管理代表委員会」を2021年11月に開催、および同年度より毎月作成している「環境エネルギー新聞」にて、社内外のトピックスやエネルギー管理に関する資格取得情報などを、社内掲示板や食堂モニターにて発信しました。その結果、「エネルギー管理士^{※2}」5名、「エネルギー診断プロフェッショナル^{※3}」2名の資格取得者が新たに誕生し、エネルギー管理意識の向上を図ることができました。

そのほか、電動機や蒸気圧力などの高効率なエネルギー利用を目指し、第三者機関の意見を踏まえて「省エネ法における管理標準」を見直しました。

※1 省エネ法：エネルギーの使用の合理化等に関する法律。

※2 国家資格。

※3 （一財）省エネルギーセンター認定。

生産設備の省エネ化

2021年度の省エネ化の一例は以下のとおりです。

- 削減の取り組みとして、不二製油（株）の阪南事業所において蒸気利用の全体効率化を目指し、2020年に発足した「エネルギー管理委員会」メンバーのもと、工場ごとの蒸気ロス調査と改善テーマの抽出を行いました。2022年度以降にこれらのテーマを実行し、CO₂削減を推進します。
- 不二製油（株）の阪南事業所の社用車にEV（Electric Vehicle：電気自動車）を初めて導入しました。
- 不二製油（株）の千葉工場では、太陽光発電システムの稼働率増加による節電が可能となりました。さらに熱回収装置を設置し、省エネ対策を推進しました。
- フジオイル（タイランド）では、蒸気ロスを調査し改善しました。また、メインエアコンプレッサーをインバータ制御できるものに変更しました。
- 不二製油（肇慶）有限公司（中国）において下水処理設備の曝気ブローモーターをインバータ制御に変更しました。



不二製油（株）の阪南事業所の社用車として導入したEV（Electric Vehicle：電気自動車）とエネルギー管理統括室メンバー

再生可能エネルギーの導入

環境ビジョン2030の目標達成に向けて、再生可能エネルギーを導入しています。2021年度は天津不二蛋白有限公司（中国）（2021年9月）とフレイアバディ インドタマ（インドネシア）（2021年12月）において新たに太陽光発電の利用を開始しました。2拠点が追加されたことで不二製油グループ7拠点において太陽光発電が稼働しています。さらに不二製油（株）つくば研究開発センターと関連工場では購入している電力の一部を低炭素電力へ切り替える取り組みを実施しました。

ブラマー チョコレート カンパニー（米国）では、生産拠点のあるペンシルベニア州、イリノイ州、カリフォルニア州の法律に沿って再生可能エネルギーを導入し、さらにRECs（Renewable Energy Certificates）を購入しています。

さらには、オフィスでの取り組みとして、不二製油グループ本社の大阪オフィスで使用する電力に「グリーン電力」を活用しています。「グリーン電力証書」の購入により、高知県の太陽光パネルで発電された電力を利用することが可能となり、同事業所の2021年度のCO₂排出量（約31t-CO₂相当）を削減したことになります。

なお、2021年度末時点で、CO₂排出量に占める再生可能エネルギーは3.8%（15,936t-CO₂相当）となりました。引き続き再生可能エネルギーの利用を進めてまいります。



太陽光発電電力の利用を開始した天津不二蛋白有限公司（中国）

関連資料

ESGデータブック（3.15MB） 